尊厳をもってその人らしく生きていく社会を目指して

デイケアニュース

vol.15

cover photo : Makoto KATOH

- message：浜村 明徳 JADC 顧問
- report：リハビリテーション・ケア合同研究大会 兵庫 2021
- event preview：全国デイ・ケア研究大会 2022 in 奈良
- voice：活動と参加してみた！ 認定デイ・ケアマスターの声
- topics：在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース
- meet our company：介護老人保健施設 アンジェロ

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

message

デイケアがもつ力、つながり。
ネットワークの中心にデイケアがあり、
そのネットワークの輪を広げることにも努めたい。

JADC 顧問
小倉リハビリテーション病院 名誉院長
浜村 明徳

コロナ禍も３年目、オミクロン株が猛威を振るい始めた今、デイケアの運営に携わっておられる皆様のご苦労に心から感謝いたしますと共に、この困難な時を潜り抜けていけることを祈っています。

ここまで続くとは想像もできず、感染予防への気持ちを持ち続けることさえ容易ではありませんが、その思いは高齢の利用者の方々がもっと強いものとなっていましょう。自粛される方々もおられますが、人が集まり感染の可能性が高くなるデイケアを利用される姿勢には、自立生活への目標を超える何かがあるように感じています。それは、「つながり」という人が生きる力になるものをデイケアが持っているからかもしれません。

今から 30 数年前、初めて英国のデイケアを視察しました。英国には、デイホスピタル、デイセンター、デイクラブと３種類があり、そのサービスの質と数の多さに驚いたものです。英国のデイセンターが我が国のデイケアに相当しますが、当時から個別ケアが実施され、集団療法が中心だった我々のかかわりに大きなインパクトを与えました。わが国では、こんなことはできないと半ば諦めていたのですが、現在では予想を覆す発展を遂げています。

この視察を約 20 年間続け、欧州中心に、オーストラリアなどのデイケアを見て回りました。この視察を通していつも感じていたことは、人を大事にする考え方、最近使われる尊厳重視の理念をデイケアが持っていることでした。当時、我が国のデイケアは「北国の春と風船バレー」と揶揄され、十把一絡げのケアをしていましたから、個別対応の重要性に着目してあり様を考えてきたつもりです。

最近、デイケアは心身の総合的復活と維持を目指し、煎じ詰めると「その人らしさの再構築と継続の支援」になるのではないかと考えています。その人らしさという言葉をよく使いますが、その本質を支援のあり様に落とし込むことは簡単ではありません。私は、健康を保持しつつ安全な環境で暮らし、持てる能力が生かされ、社会との交流やつながりがあり、自分のことは自分で決められ、安心して生活できることなどが支援の要素となり、地域から見守られていると感じて生活できることが重要になるのではないかと思っています。

哲学者の鷲田清一さんは、「自立というのは、他人の助けが必要でなくなることではなく、いざとなったら『助けて』と声を上げれば、だれかがすぐに駆けつけてくれるようなネットワークが編めているということ」（『濃霧の中の方向感覚』）としています。

そのネットワークの中心にデイケアがあり、友人や市民を含めたネットワークの輪を広げることにも努めたいものです。デイケアは高齢の利用者にとって人生で最後に仲間と集える場所かもしれません。その人らしさを支援する我々は、利用者にとって人生最後に出会った応援団ということになりましょうか。

以上、雑駁ではございますがメッセージとさせていただきます。

information

JADC 会員限定 ON DEMAND WEBCAST

会員向け無料教育セミナー、好評配信中！

JADC では会員様を対象に、オンデマンド配信による**無料教育セミナー**を実施しています。
第２弾は富家隆樹理事より「認知症は愛と知る　よくわかる認知症」をテーマに、第３弾は多良淳二理事より「通所リハにおけるクレーム対応」をテーマにご講義いただきました。多くの会員様に聴講いただいており、大変好評をいただいています。JADC では引き続き本セミナーを企画してまいります。受講費は無料ですので、ぜひとも一人でも多くの会員様にご視聴いただき、日々の業務にお役立ていただけますと幸いです。

配信予定
- ２月配信「精神疾患を有する方のリハビリテーション」
- ５月配信「アドバンス・ケア・プランニング」
- ７月配信「わかりやすい経過記録の残し方」

通所リハにおける リハビリテーションマネジメント 実践マニュアル

通所リハに“今”求められていることが満載。

2021 年６月に JADC が監修しました「通所リハにおけるリハビリテーションマネジメント実践マニュアル（中央法規出版）」が出版されました。

令和３年度介護報酬改定により、旧リハビリテーションマネジメント加算Ⅰが基本報酬に包括され、今やリハビリテーションマネジメントは通所リハビリテーションにとって当たり前のものとなりました。リハビリテーションマネジメントを効果的に取り組むためには、SPDCA サイクルに則った介入が必要です。本書には、通所リハビリテーションの総論から、SPDCA に沿ってどのように取り組むことが求められているか、各疾患の介入方法、サービス提供時間別による取り組みの違い、地域連携、そして今改定で強化された科学的介護の推進（LIFE）について等、幅広い内容が掲載されています。

本書にはまさに、“今”通所リハビリテーションに求められていることが満載です。ぜひともご一読いただき、通所リハビリテーションの発展にお役に立てますと幸いです。

書名：通所リハにおけるリハビリテーションマネジメント実践マニュアル
定価：本体 4,400 円（税込）
※当会事務局までご連絡をいただければ、割引価格にてご提供可能です。
発行：中央法規出版株式会社
監修：一般社団法人全国デイ・ケア協会

知的好奇心は、将来の希望。

JADC 研修会、新年度の予定を掲載。

今年度はオンライン開催が上半期より安定的に開催されてきました。これもひとつのスタイルとして定着したといえるでしょう。今後もしばらくはコロナ禍を踏まえた研修体制が必要です。順次、機能も内容もブラッシュアップしながら、皆様の期待に応えられる研修会を開催していきます。今年度の研修会も残りわずかとなりましたが、早速、次年度の開催スケジュールが出ました。

開催日		研修会	開催地・開催方法
２月	12 日（土）	経営戦略セミナー	オンライン開催
	19 日（土）～ 20 日（日）	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催
３月	４日（金）～６日（日）	在宅リハ EG コース ④	オンライン開催
	20 日（日）	第９回デイ・ケアスキルアップセミナー	オンライン開催
	26 日（土）	第７回三団体合同研修会	オンライン開催
４月	16 日（土）～ 17 日（日）	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催
５月	７日（土）～８日（日）	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催
６月	11 日（土）～ 12 日（日）	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催
	17 日（金）～ 19 日（日）	令和４年度在宅リハ EG コース ①	オンライン開催

EVENT REVIEW

リハビリテーション・ケア合同研究大会 兵庫 2021

Let's integrate! ～リハビリテーションの心技体～

2021 年 11 月 18 日（木）～ 19 日（金）

史上初となったハイブリッド開催。
懐かしい顔との再会、
そして全国規模で新たな仲間たちとつながった２日間。

様々な困難を乗り越え成功裏に終わった初めてのハイブリッド開催が、新たな扉を開けた。

JADC も主催団体の一つである、「リハビリテーション・ケア合同研究大会兵庫 2021」が 2021 年 11 月 18 日～ 19 日に開催された。大会テーマは「Let's integrate! ～リハビリテーションの心技体～」とし、大串幹大会長、澤村誠志名誉大会長の熱い想いを筆頭に、リハビリテーション・ケアの真髄について、多くの参加者とともに考え学ぶ機会となった。

大串 幹大会長

さらには、主催６団体の会長が一堂に会し行われた「リハビリテーション強靭化計画」では、各団体の立場から、今日そして未来のリハビリテーションに向けて力強いメッセージをいただけた。

今回は本大会として初めてのハイブリッド形式（会場開催＋オンライン配信）が用いられた。コロナ禍となってからは全国から集合することが困難となることが多い中、久しぶりの会場開催は懐かしくもあり嬉しい気持ちになった。やはり多くの方と直接お話ができる場は重要であると感じられた。感染防止対策や大会運営にご尽力いただいた大会実行委員会の皆様には深くお礼を申し上げたい。

二日目に主催６団体が一堂に介し行われた主催団体合同企画“リハビリテーション強靭化計画”では、力強いメッセージが発信され関係者を鼓舞させた。写真左から、斉藤正身会長（日本リハビリテーション病院･施設協会）、松坂誠應会長（全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会）、柳尚夫会長（全国地域リハビリテーション研究会）、三橋尚志会長（回復期リハビリテーション病棟協会）宮田昌司会長（日本訪問リハビリテーション協会）、近藤国嗣会長（全国デイ・ケア協会）。

活動×参加

現地参加

今回のリハケア合同研究大会はハイブリッド形式での開催ということで、新しい経験が多くありました。

現地では、例年のように会場からあふれるほどの参加者の姿はありませんでしたが、オンライン配信用に会場にはカメラや機材が多く設置されていたように感じました。現地参加にこだわらない、日本全国どこからでも参加できる様式に、新しい時代を体感した気分になりました。

私自身、口頭での一般演題発表にて参加申し込みをしていましたので、オンデマンド配信用に音声吹き込みデータの作成を行いましたが、これも初めての経験でした。また、オンデマンド配信に質問を頂きましたが、回答内容を整理し、文章をまとめる事ができたのは現地発表にはないメリットだと感じました。

永生クリニック副主任　理学療法士　松井 佳奈美

オンライン参加

全国デイ・ケア協会主催のシンポジウムを聴講し大変勉強になりました。座長の土井先生を始め、シンポジストの松永先生、都甲先生より、加算の目的や効果、現場での取り組みや課題を紹介していただきました。

生活行為リハの対象を判断するために、「回復期病棟から退院し、日常生活を安全に過ごすための支援が必要な者、日常生活が概ね自立の軽度者で趣味活動の再開を目指す者」と独自の基準を設ける等の工夫をお示ししていただきとても参考になりました。

今後、より活動と参加に焦点を当てたリハビリテーションの提供や、職場での他セラピストとの事例検討会の開催など、身近な部分から取り組んでいければと思いました。

ハイブリッド形式であったため、熊本からオンラインで参加することができ、ストレスなく大会の雰囲気を味わえたのは新鮮でした。

介護老人保健施設清雅苑　作業療法士　甲斐 晃

JADC シンポジウム

活用していますか？ 生活行為向上リハビリテーション

JADC ではテーマを「活用していますか？生活行為向上リハビリテーション」と銘打ち、シンポジウムを開催した。座長は土井勝幸 JADC 副会長が務め、シンポジストとして松永玄氏（東京湾岸リハビリテーション病院）および都甲幹太氏（介護老人保健施設あやめの里）をお招きし、生活行為向上リハビリテーションの現状と課題、活用の効果などについて議論する機会となった。

土井 勝幸座長
都甲 幹太氏
松永 玄氏

生活行為向上リハビリテーションは、効果の有用性や利用者に対するメリットの大きさは明らかでありながら、算定する事業所が未だ多くない実態があった。これを受けて、令和３年度介護保険報酬改定では階段状の単位数が均一化されたことや、必要時には再算定が可能とするといった見直しがされ、より算定しやすい環境になったことは間違いがない。そこで実態や、算定している先進的な事業所の実例や考え方、姿勢を伝えることで、メリットが大きく、算定しやすいアプローチであることを伝える機会となった。加えて、当事者やその家族を含むすべての関わる人にとって、生活行為向上リハビリテーションが意義深いものであることを発信した。

その中でも、シンポジストの２名から共通して挙げられた内容は、生活行為向上リハビリテーション実施加算を算定する対象を明確に持つことの重要性であった。松永氏は「回復期病院等から退院し、在宅生活を安全に送るための支援が必要な利用者」「日常生活が概ね自立の軽度者で、趣味活動の再開を目標にできる利用者」とした一方で、都甲氏は「活動･参加の目標に対し、模擬練習、実際の場面での動作練習、動作確認等に一定の時間を要する利用者」「退院（退所）直後の利用者で、機能訓練のみではなく、一定期間自宅生活等における生活状況の評価、環境調整、介助指導等に一定の時間を要する利用者」「利用中で生活機能や心身機能の低下をきたし、全般的な介入に一定の時間を要する利用者」と述べられた。明確な基準を事業所内で共有することで、具体的な検討が可能になると考えられる。

また、「生活行為向上リハビリテーション実施加算は特別な加算ではなく、算定のハードルは決して高くない」というお話も伺えた。生活行為向上リハビリテーション実施計画の作成は研修等の要件を満たしたリハ職が行う必要があるが、実際に介入する職種は誰でも可能であり、事業所全体で取り組んでいく加算であるといえる。

本シンポジウムでは、生活行為向上リハビリテーション実施加算の生みの親である村井千賀氏より「制定当時はネガティブな意見も多かったが、今日の取り組みの報告を受けて、確実に浸透していることが感じられた。大事にしたいことが伝わっていてうれしい」と発言があった。このように課題が多いながらも、メリットが大きいと我々が感じる一方で、待っていても成果が得られる訳でもない。まずは取り組み、実例を積み上げ、それを周りに伝えていくことを考えなければならない。そのためには制度を正しく理解し、実践し、まさしく井の中の蛙にならず、謙虚に地域の人たちと触れ合い、伝えていく必要があると考えさせられたシンポジウムとなった。

第 44 回全国デイ・ケア研究大会 2022 in 奈良

和を以って、デイ・ケアを為す。

～自立支援のコーディネーターとして～

7月1日（金）～7月2日（土）

リハケア兵庫の興奮さめやらぬうちに、次の大会のお話です。昨年は困難を乗り越え２つの大会を成功に導き、新たな大会のカタチを見出した１年となりました。会員の皆様の情熱が成功の原動力になったと言えるでしょう。やはり、“活動と参加”なのです。今年は古都、奈良。日本最古の都で、最新の知見を。まずは、大会長からのメッセージです。

こんな時代だからこそ、“ 和 ” を大切にしたい。 ―――――――――― 大会長 平井 政規

この度、第 44 回全国デイ・ケア研究大会を奈良にて開催する運びとなりました。2022 年（令和４年） 7 月 1 日（金）～２日（土）の２日間、奈良の大仏で有名な東大寺がございます、奈良公園敷地内の奈良春日野国際フォーラムを会場に開催させていただきます。

聖徳太子「十七条憲法」は、「和を以て貴しと為す」という言葉から始まります。1300 年の歴史を誇る古都・奈良平城京遷都を遡ること約 100 年前、飛鳥の地において制定されました。この言葉の持つ意味に習い、大会のテーマは「和を以って、デイ・ケアを為す。～自立支援のコーディネーターとして～」といたしました。

デイ・ケアにおいて利用者の自立支援は、利用者と仲間を尊重し、考え、チームで協働して達成するものです。この「和」という言葉の一つには、協調するという意味があります。つまり、デイケアにかかわる全ての職種、関連するサービス提供者と、お互いに納得いくまで議論をして、利用者さんの自立支援のためのデイケアの実践に取り組もうという思いを込めました。さらには平和という意味もあり、こんな時代だからこそ「和」を大切にしたいと考えました。奈良大会が、皆様の「和」のひと時になればと願っております。

大　会　長：平井 政規（医療法人鴻池会 専務理事）
名誉大会長：平井 基陽（医療法人鴻池会 理事長）
実行委員長：西田 宗幹（医療法人鴻池会 リハビリテーション部部長）

主 催：一般社団法人 全国デイ・ケア協会
主 管：医療法人鴻池会

大会事務局：医療法人鴻池会　介護老人保健施設鴻池荘内
連絡先：〒 639-2273　奈良県御所市池之内 1064
TEL：0745-64-2180　FAX：0745-64-2063
E-mail：44daycare-nara@kounoikekai.com
担当者：福本、石田

参加してみる　参加登録 ２月１日～

バラエティに富んだデイケア全方位型講演・セミナー

【特別講演】

◈ JADC 顧問 / 介護老人保健施設伸寿苑 施設長　浜村 明徳氏
「自立支援を考える」

◈ 地域共生政策自治体連携機構事務局長代理　石黒 秀喜氏
「老いに対する準備と支援」

◈ 認知症当事者ネットワークみやぎ代表理事　丹野 智文氏
「認知症である本人が自分で決める支援」

【モーニングセミナー】

◈ 介護老人保健施設あやめの里 作業療法士　都甲 幹太氏
「利用者の想いを具体的に実現するための
生活行為向上リハビリテーションとは」

◈ 介護老人保健施設鴻池荘 歯科衛生士　松尾 由佳氏
「チームで支援する口腔健康管理」

【パネルディスカッション】

「デイ・ケアが真価を発揮するために」

活動してみる　演題登録 ２月１日～

01 … 経営・運営
02 … 人材育成・教育
03 … 生産性向上
04 … 居宅訪問
05 … 短時間利用
06 … 認知症
07 … 重介護・医療ニーズ
08 … リハビリテーション
09 … 自立支援
10 … 食支援
11 … ケア
12 … アクティビティー
13 … 社会参加・就労支援
14 … 地域支援・地域活動
15 … 事例報告
16 … 連携
17 … 災害
18 … 感染症対策（COVID-19）
19 … その他

オピニオンズブース

演者、参加者、座長が意見交換できる部屋を、全セクションに設置予定。名刺交換や学びを深める場として、活用してみよう。

会場　ソレだけでも行く価値あり

奈良春日野国際フォーラム　甍 ～I・RA・KA ～

学会の楽しみのひとつは会場の雰囲気。今回は奈良公園敷地内の奈良春日野国際フォーラム 甍～ I・RA・KA ～。能楽堂を中心に構成されるこの会場がどのように使われるのか楽しみです。また、会場へアクセスするだけで悠久の歴史の中を散歩している気分に浸れることでしょう。

URL：http://www.i-ra-ka.jp

おもてなし

アツい学会以外にも、趣向を凝らした企画が用意されているようです。ウエルカムパーティは、甍（↑）の庭園で立食パーティーが予定されています。これは新鮮。

奈良の郷土料理に舌鼓をうちながら、屋外でのパフォーマンスを楽しみ、奈良を満喫しながら、全国の仲間との出会い、親睦をより一層深めましょう。

あの「ほうせき箱」が！

氷の神様が祀られている氷室神社がある奈良県にはかき氷の名店がたくさん。今回はなんと、『ほうせき箱』さんが会場で、おいしいかき氷でおもてなし！奈良の夏は強烈です。

要注目

令和４年度

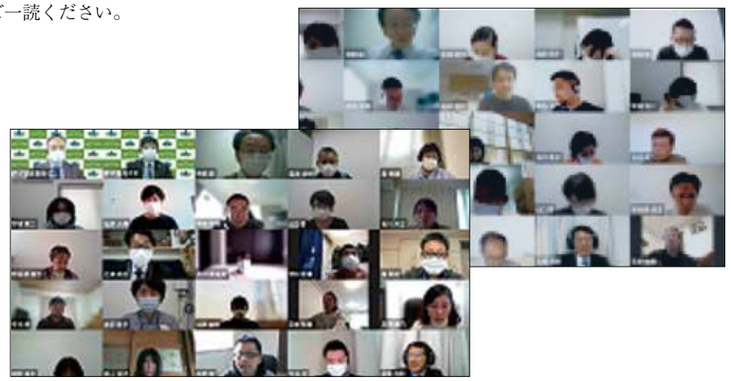
在宅リハビリテーション エキスパート・ジェネラリストコース

EXPERT GENERALIST COURSE

令和３年度在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコースも、残るところ第４クールのみとなりました。今年度はコロナ禍の状況を鑑み、全クールを完全オンライン形式としています。第３クールまで 27 の講義が行われ、改めて様々な分野のエキスパートからいただく貴重な講義は、どれも非常に参考になるものでした。また、グループワークも活発に意見交換がなされており、受講者同士の絆も深まっている印象です。今号の 活動×参加「活動と参加してみた」では、在宅リハ EG コース受講者の感想も掲載していますので、ぜひご一読ください。

さて、今年度は 29 名の受講者と一緒に、全４クール 35 講義を一緒に学んでいますが、早くも次年度開催についてお知らせする時期となりました。次年度についても、昨今の社会情勢や受講者の負担等を鑑み、オンライン形式を中心に開催することが決定しました。30 名という狭き門ではありますが、多くの方のお申込みを心よりお待ちしております。

詳細は、下記および JADC ホームページをご参照ください。



OUTLINE

【令和４年度在宅リハ EG コース日程】
①令和４年６月 17 日（金）～ 19 日（日）
②令和４年９月 16 日（金）～ 18 日（日）
③令和４年 12 月９日（金）～ 11 日（日）
④令和５年３月３日（金）～５日（日）

【研修会場】
オンライン開催（感染状況によって会場開催を検討）

【研修費用】
￥120,000

【対 象】
- JADC 会員施設のスタッフで、以下の条件に当てはまる方
- 施設長の推薦を得られる専門職で経験８年以上の方
- 医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・管理栄養士・歯科衛生士　のいずれかであること
- すべてのプログラムにご参加できる方

【定 員】
30 名

【JADC ホームページ】
https://day-care.jp/kenshu-eg

活動と参加してみた! @ 在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース

在宅に必要なことが網羅。新たな知見と充実した学びの場。リモートのハンディはなし。

私自身、病院勤務を経験して在宅へ足を踏み入れたのですが、在宅で介入する際の視点や思考の乏しさ、本人・家族を主体とした支援の難しさを痛感し、在宅における幅広い知識と技術の必要性を感じておりました。

そんな中、在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース（在宅リハ EG コース）の開催を知りました。本研修は、疾患のみならず、法制度、運営、マネジメント、多職種連携など在宅に必要なことが網羅されており非常に充実した研修内容であること、それぞれのスペシャリストが講師を務めていることに魅力を感じ、今回参加を決めました。

在宅リハ EG コースは、全４クール（計 12 日間 35 講義）で構成されており、今回は、COVID-19 の影響で全クールオンライン開催となっています。受講生と直接交流できないのは残念ですが、リモートを活用したグループディスカッションで活発な意見交換会が出来ています。それぞれの施設の運営方法や悩み、課題を共有し、さらに新たな知見が得られる等、充実した学びの場となっています。12 月現在、３クール目の受講を終え、残り１クールとなりましたが、より多くの事を学び、臨床で実践できるよう最後まで頑張りたいと思います。

デイケアセンターあめくの杜
作業療法士 吉嶺 綾乃

活動と参加は、JADC が掲げる重要なアイデンティティのひとつです。時代のニーズに応えるべく、様々な企画・研修を展開してきました。

コロナ禍の影響は、物心両面に大きなストレスを与え続けています。その一方で、人は様々な分野、場面に叡智を結集させこの問題に対峙してきました。そこから生まれた新たな発見、思考は、より人を強くしていっているのではないかと感じます。

活動×参加

JADC の研修会もオンライン開催で対応を進め、定着していく中で、オンラインならではのメリットも発見し、より良質な研修会をお届けできるようになってきています。今回の活動と参加してみた！ は、沖縄と兵庫から、そして EVENT REVIEW で登場していただいた方々は、熊本と東京からのご参加。まさに全国津々浦々ですね。

次年度のスケジュールも出ています。Let's 活動と参加！

活動と参加してみた! @ 明日から使える！初めての通所リハ実践研修会

もう１度学んでみたい。その思いで参加して、再確認と多くの新しい学びを得た。

私は通所介護で生活相談員として３年間働き、現在は通所リハで介護職員として約４年間勤務しています。通所介護では介護負担軽減や利用者様の楽しみを目的としたレクリエーションなどを提供していました。通所介護と通所リハは目的が異なるため、はじめは戸惑いもありながら、利用者様と関わっていました。

今回の研修受講は、「初めての通所リハ」というタイトルと経験年数不問という見出しを目にしたことがきっかけでした。もう一度学んでみたいという気持ちで参加をしてみると、通所リハに求められる機能と役割について多くの学びがありました。なかでも、通所リハは生活期の役割を担っていること、地域や在宅生活を支えるリハビリテーションの拠点としての役割を担うものであること、自立した生活・安定した生活をサポートする上で重要なポジションにあることは印象に残っています。

研修で学んだことを活かしつつ、利用者様の話を傾聴しながら、本来の目標に達するまでにある「小さなニーズ（目標）」を少しでも聞き取れるよう関わり、リハ職に情報提供していきたいと思います。そして、利用者様の自己実現へ向け、しっかりとした目標を持って通っていただけるようサポートしたいと考えています。

西宮協立デイケアセンターほほえみ
介護福祉士 大和 恵美

新 制 度

Master's Voice

高橋 泰彦　医療法人社団苑田会 花はたリハビリテーション病院（理学療法士）

私は医療法人社団苑田会の苑田会リハビリテーション病院に2010年に理学療法士として入職し、回復期病棟に2015年まで勤務、その後2016年から併設の1－2時間型デイケアに従事し始めました。2017年からはプレイングマネジャーとして管理業務に携わり、2019年に旧制度「認定管理者」を取得しました。2020年からは訪問リハにも携わるようになり、介護保険部門の統括をおこなっていました。2021年7月に同法人の花はたリハビリテーション病院に異動となり、現在は病院の事務長代行として勤務しております。

「デイ･ケアマスター」の資格は、2017年ごろにデイケアの理解を深めようと取得を目指し始めたと記憶しています。スキルアップセミナーでは、デイケアの成り立ちからデイケアの方向性、行政から求められている機能などを学ぶことができました。研究大会にも参加し、他施設の取り組みを知ることで様々なアイディアを得ることができました。こういった資格取得のための活動は自施設の運営をする上でとても有用で、前院では自立支援をキーワードに他施設の取り組みを参考にしながら、ウォーキングイベントや障害者スポーツの導入、互助会の立ち上げなどの企画を実施できました。このような活動を通して、地域包括ケアシステムの理解が深まり、地域医療や地域貢献に対する自分自身の考え方も変化してきたように思います。

そういった活動が認められたのか、現在では現場を離れ畑の違う病院経営や経理を仕事としております。ヒト･モノ･カネの管理や病院方針の企画など、忙しくも充実した日々を送っております。

当院はまだ開院5年目ですが、120床の回復期病棟と60床の障害者病棟に加え、1－2時間型デイケア・訪問リハ・外来リハも実施しており、循環型医療を担い地域包括ケアシステムに貢献する機能を有していると思っております。デイケアで学んだ地域への向き合い方を基に、回復期から生活期、予防期までリハビリテーションを通して地域に貢献できる病院となっていけるよう病院一丸となって頑張っていきたいと思います。最近では医療法人共和会さんのプロボノ活動を見て、「凄いな！真似したいな！」と思っております。「真似したいな！」と思えるような先駆者の情報に触れられることもデイ・ケアマスターのメリットのひとつだと思います。

認定デイ・ケアマスターの声

Master's Voice

森永美加　野伏間クリニック　通所リハビリテーション（理学療法士）

福岡県久留米市にある野伏間クリニックでは、入院・外来・訪問リハビリ・通所リハビリと跡切れの無いリハビリテーション提供を目指し日々リハビリテーションに取り組んでいます。私は、通所リハビリで責任者として理学療法士業務と管理業務を行っています。スタッフ数はPT・ST・OT 8名、介護福祉士等10名、看護師2名の20名です。当事業所では「地域を元気に」をモットーに事業所内外で様々な取り組みをしています。

事業所内では通所リハビリと通所介護の機能分化と連携を目指しています。新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中で、月々のリハビリ会議も各事業所が安心して参加できるように対面からオンラインでの開催に変更し、さらなる連携の強化を図るようにしています。

また、「医師の街」といわれる市内には、多くの医療機関とともに、様々な特徴を持った通所介護施設があります。そのこともあり、通所リハビリと通所介護の違いが分かりにくくなってきています。

本来であれば、通所リハビリでは重傷者や在宅復帰直後や難病などの医学的管理が必要な困難事例が中心で、通所介護ではADLやIADLもしくは社会参加が中心となるイメージです。退院直後は通所リハビリで医師やリハビリ専門職・看護師・介護福祉士等の介護職員によって加算を算定しながら多職種・多事業所で生活を軌道に乗せ、軌道に乗った後は通所介護や総合事業による自立支援の流れはよく言われていますが、実際はスムーズにできていないのが現状です。逆のイメージといえば大袈裟ですが、退院前に、「重傷や高齢でリハビリどころではないので通所介護、ある程度元気になったらリハビリができるので通所リハビリ」と決められてしまうこともしばしばです。私たちは、多職種でチームを組み医学的管理の元リハビリを実施し、生活の場である住居を訪問し、専門的な知見で介護の方法や動作の方法を指導することができます。介護度が高い方ほどその必要性は大きいと思います。その役目や期待に十分に応えることができていないのではないか？ 利用者や家族、彼らを取り巻く事業所に求められていることにしっかり対応できれば、この「逆転現象」を解消できるかもしれないと考え、これからもスタッフ教育や自己研鑽を図ることに力を注いでいきます。

認定デイ・ケアマスターの方で、名刺等に使用できる画像データをご要望の場合は、事務局までご連絡ください。

会員施設 自己紹介

医療法人あすか会
介護老人保健施設
アンジェロ

〒631-0062 奈良県奈良市帝塚山 2-21-21

多職種協働であらゆる分野、事態にも積極的、柔軟に対応。

はじめに

介護老人保健施設アンジェロは奈良市北西部の自然豊かで歴史ある文化財も豊富でありながら、大阪や京都へアクセスが良い閑静な住宅街に位置しております。近隣地域の65歳以上の構成比は35.3%、75歳以上の構成比も19.9%と周辺より高い状況です。法人の理念「地域リハビリテーションを推進し、地域に貢献する」に基づき、地域の皆様や社会に貢献していくことを使命としております。

デイケアにおける取り組み

ご利用者様一人ひとりのニーズに合わせて、短時間（1－2時間）から3－4時間、そして6－7時間と幅広く利用プログラムをご用意しています。軽度の方から重度の方まで受け入れ体制が整っており、その方にあった目標、プログラムでの利用が可能になっております。

各ご利用者が「その人らしく」生活していける基盤となるよう、理学・作業療法士、言語聴覚士が中心となり、短期集中・認知症短期集中リハや生活行為向上リハに力を入れ、具体的目標を達成するため多職種協働により進めています。買い物に出かける、趣味や社会参加へのアプローチを増やしながら、管理栄養士や歯科衛生士からも栄養と口腔ケアにアプローチし、介護予防にも積極的に取り組んでおります。

同法人の介護老人保健施設ハピリス。

また集団プログラムやパワーリハビリテーションマシンを効果的に活用することで、ご利用者の身体機能・認知機能向上の相互作用を図り、使っていない筋肉を動かし、動作性・体力の改善から介護予防、心理的活動性の改善にも効果を得ております。

リハビリテーションマネジメント加算については以前から医師はリハビリ計画書の説明やカンファレンスに毎回参加してきたので、改定後もほとんどの方が（B）を算定しております。訪問指導､福祉用具の提案等は当然のことながら、担当のケアマネジャーとも情報を共有し、必要に応じて訪問リハビリテーションの併用を提案することで在宅環境を考慮したリハビリテーションを実践してきました。

電子カルテの運用にて職種間での連携をスムーズに行い、早期からVISITへの着手しました。そして厚生労働省が進めるLIFEにもご利用者個人のフィードバックのみならず事業所をあげて効果的なリハビリテーションの実践のため全面的に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症への対策を行う中で、安定的なサービスの提供を行うために様々模索し、Zoomなどオンラインでの対応や会議についても柔軟に対応してきました。

継続してサービスの質の向上、自立支援、地域リハビリテーションの普及､啓発を促すことができるよう、認定デイ･ケアマスターの資格者も、本年2名取得予定で、制度を理解した上でより良いマネジメントができるようにしていきたいと考えています。

最後に

たとえ障がいを抱えたとしても、最後まで人間らしく、住み慣れた地域で暮らし続けていけるよう、医療・介護の提供によりこれからも精一杯ご支援してまいります。

https://asukakai.or.jp

WELCOME

デイケアニュースで人気の当コーナー“会員施設 自己紹介”、創刊以来今号で延べ15施設ご紹介してきました。当コーナーのさらなる充実を目指しています。
ぜひ、私の施設を紹介したい！という会員様は、事務局までご連絡をください。

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

当会の前身である、全国老人デイ・ケア連絡協議会は 1994（平成 6）年、老健のデイケアや病院・診療所のデイケア等、全国様々あるデイケアを提供する施設の有志が集まり、情報の共有化・職員の研修・研鑽の機会提供等を目的として開設し、これまで活動を続けてまいりました。

現在当会は介護報酬改定における通所リハビリテーションの窓口を担い、報酬改定時においてはリハビリテーションマネジメントと通所リハビリテーションの意義を問い、加算として位置づけ、質に関わる根幹を表現してまいりました。

また、重度者に対してもより手厚いケアが提供できるサービスとして、地域でのリハビリテーション資源として重要であることを明確にしてまいりました。生活行為向上リハビリテーションの普及については特に、厚生労働省および各種団体との連携役とし、研修や企画に参画し現在に至ります。

これも一重に、会員施設の皆様から頂いた多くのご意見や、ご協力の賜物でございます。

ついては、今後一層地域でのデイ・ケアの役割を全うするために、協会としてより多くの「声」を賜りたく、皆様のお力をお貸しください。

より一層、通所リハビリテーションが地域に必要とされ地域生活の中核を担うサービスとなるために、今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

会員特典

Join Us

◎ **当会主催研修会、研究大会を会員価格にて参加可能**
・全国デイ・ケア研究大会、リハビリテーション・ケア合同研究大会　・主催研修会
※オンライン開催の研修会も多数企画していきます

◎ **「デイケアニュース」の定期発送**
・年２～３回発行しております。
各種研修会情報、協会の活動報告、トピックス、会員施設紹介などご提供しています。

◎ **制度関連や現場で困っていること等の問い合わせが可能**
・原則、会員様のみご対応させていただいています。

◎ **会員ページの閲覧が可能**
・各種資料のダウンロード、研究大会抄録集、当会実施アンケート結果などの閲覧が可能です。
今後さらなるリニューアルを検討しています。

◎ **会員への定期的なメール配信**
・研修会案内
・制度関連情報　等

※正会員（事業所）の職員は全員上記特典の対象となります。

一般社団法人　全国デイ・ケア協会　事務局
住所：〒 101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 14 番地千代田寿ビル３階
TEL：03（5207）2710　FAX：03（5207）2711
E-mail：info@day-care.jp　URL：www.day-care.jp

編集後記

今年度は、全国デイ・ケア研究大会やリハビリテーション・ケア合同研究大会、さらには在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース等、オンラインやハイブリッドといった今までとは異なる形で開催されました。このような状況の中、デイケアニュースにおいても、どの様な内容、形で皆様に情報をお送りすることができるのか、検討を繰り返してきました。その中で、広報委員会として、ホームページのあり方も含め、これまで諸先輩方が築いて下さった「デイ・ケア協会の歴史」を知っていただくとともに、これから一緒に歴史を作っていく仲間が増え、協会活動が更に盛り上がっていくようなデイケアニュースの発行が必要と強く感じている所です。今号でもこの想いを感じていただけると嬉しいです。今後とも、よろしくお願いいたします。

岩渕 隆俊（JADC 広報委員）
介護老人保健施設せんだんの丘

デイケアニュース15号　2022年2月発行　編集／発行　一般社団法人 全国デイ・ケア協会 広報委員会